

令和7年7月10日

理工学部長 田中康寛 殿

2024 年度後期の授業改善アンケートを活用した教育改善報告（原子力安全工学科）

原子力安全工学科

主任教授 牟田 仁

教務委員 中村 いずみ

令和7年7月2日（水）に開催されました教育改善検討会議において議論を行い、その後下記事項についてメール審議し承認されたことをご報告申し上げます。

1. 学科としての教育改善の報告

（1）アンケート分析結果

今回のアンケート対象となった科目は20科目である。

- アンケートの回収率は依然として低く、平均で11%となった。このうち、回答数が2件以下のものは5科目あった。回答数の多い科目でも回収率は約25%であり、回収率の向上に向けた取り組みが必要である。
- 設問2～6の、教材の適切さや授業の進行、自身の能力向上に対する意識等に関する設問では、「そう思う」「まあそう思う」の肯定的評価が全科目の平均では90%前後であり、授業に対しては概ね高い評価が得られていると考えられる。
- 設問2～6の回答を個別科目で確認すると、いくつかの科目では平均値3未満の項目があった。これらの科目はアンケートの回収率が10%未満（回答数で1～5件）であり、少数意見の影響が強く表れている可能性がある。アンケートの回答は踏まえつつ数値を参考値として考え教員同士の意見交換などを通じ教育改善に結びつけることが重要と考える。
- 学習時間は平均で2.3時間であり、これまでと大きな差はない。
- 授業環境に関しては、設問5（授業環境が十分だったか）に対するアンケート回答では上述の通り肯定的な評価ではあったが、自由記載意見を確認すると、
 - PCを使用する授業なのに教室にコンセントが無いのは致命的
 - SD-PBL(3)の実施時期が適切ではない
 - 2限の必修授業後、3限の必修授業で王禅寺キャンパスへ行くのに学生の負担が大きい等の意見があった。このうち、王禅寺キャンパスまでの移動については令和7年度よりこの授業に合わせてバスを運行することになり、今年度からは学生の負担は軽減すると考えられる。教室のコンセント整備については継続して整備を求めたい。

（2）アンケート公開方法

集計したアンケート結果については、学科ホームページ (<https://www.nuc.tcu.ac.jp/>) にて学生が閲覧できるよう掲載する。

(3) 学科の教育改善検討会議の概要報告

4月23日の教育改善検討委員会にて教務委員より授業評価アンケートの集計結果を提示し、担当科目のアンケート回答状況を確認いただいた。その後アンケート結果の所感について記述式の回答依頼を行った。7月2日の教育改善検討委員会にて各教員から提出された回答結果を提示し、授業改善に向けた意見交換、情報共有を行った。

アンケート結果の所感、7月2日の教育改善検討委員会での主な意見等を以下にまとめる。

- 多くの科目でアンケート回答数が少なく、継続して改善の必要がある。
- アンケートの実施を課題として出した科目では回収率が上がった。理解度確認試験の前に実施させるなどすると回収率向上が期待できる。
- E ラーニングでは確認テストをしないと評価されないという仕組みがある。授業評価アンケートも14回の授業を受講しました、最後に自己評価を行いましたということが整って初めて成績評価がされるという仕組みにするべきだと思う。
- 外部講師による講義は総じて学生の興味を喚起するのに効果的であった。
- 直近の新しい話題を取り入れるなど、講義コンテンツの更新を進めたい。
- 履修者が大人数(160名超)となった科目では講義の運用の難しさが生じた。また、教室環境に対する不満も多く寄せられた。今後も履修者が多い場合、2クラスに分けるなどの工夫が必要。
- SD-PBL(3)では全体にSDGsに偏りがちでテーマ設定の難しさがあった。自由な発想の問題解決に向けて考えることを指導すべきだった。
- 全体として文章作成能力の低下が気になる。2年生あたりでレポートを丁寧に指導した方が良い。
- 積極的に課題に取り組む学生とそうでない学生とでレポートの質に大きな差が生じた。課題に興味を持たせる工夫が必要。

(4) 学科の教育改善の具体策

- ・ 2ヶ月に一度のペースで教室会議とは別に教育改善検討委員会を開催している。JABEE 審査の際に指摘された項目のフォローアップやシラバスの点検、授業内容の検討などを行っている。
- ・ 留年生の対応は原則として入学年次担任のままとしている。そうすることで卒業までの細やかな一貫した指導ができるような体制としている。特に学期のはじめの履修登録時やクォーターの変わり目には教務委員と各学年担任との連絡を密にして、学生カルテを活用することで綿密で計画的な履修指導を実施する。
- ・ 外部の資格試験を利用した客観的な理解度評価指標として、放射線取扱主任者試験等の国家資格試験への挑戦を促している。受験のための準備から合格者への補助に至るまで手厚く対応してきていることについては学生の中でも認知度が広がりつつある。これら資格取得が就職にもアドバンテージになることをより明確に示すことができれば学生の意識を変えていく一つのきっかけになると考えている。
- ・ 外部講師を招いた講義は学生にとってもよい刺激となり、高い教育効果が得られるため、講義担当教員がそれぞれのテーマに合わせて依頼するようにしている。

- ・ 当学科の教育課程表に載っている共通部門や他学科科目をご担当いただいている先生方との学習・教育到達目標などについての情報共有、意見交換の機会を検討していく。

2. 理工学部教務委員会への提案

(1) 共通問題の指摘

- ① 学生による学生支援の拡充について
- ② 設備面について
- ③ 授業評価アンケートについて

(2) 改善策の提案

- ① 学生による学生支援の拡充について
 - ・ 学生実験の科目では、TA・アルバイトを多数雇用し、運営している。このことは受講学生の理解度に大きく寄与しており、今後も継続したい。また TA 自身も教えることにより自らも学ぶことが多く、TA となる学生にとってもメリットが大きい。他学科においても同様と考えられるので、TA 等の雇用について大学本部としても費用の面を含めバックアップしていただくようお願いしたい。
- ② 設備面について
 - ・ PC 必携化に伴い電源不足も深刻化している。各机にコンセントのない教室において延長ケーブルを充実させるなどの対応をお願いしたい。
- ③ 授業評価アンケートについて
 - ・ アンケートの回収率を向上させるための方策として、学科内の意見交換では課題の一つとする、理解度確認と合わせて実施する、アンケートの回答を成績評価の条件にする、等の意見が出されたが、いずれも各教員の呼びかけに依存しており十分な効果を期待するには限界がある。他学科、他学部の Good practice の共有と、全学的な仕組みの改善をお願いしたい。

以上